

インフルエンザが流行しています。

2017.02.04

昨年夏から始まったおたふくかぜの流行がようやく落ち着いてきたと思っていたら、今度はインフルエンザの流行が新学期の始まりとともに始まってきたようです。

函館市内近郊では、12月年末に一時的にサーベイランス上の警報状態にあたる1医療機関で週に30名以上のインフルエンザの流行が約3週にわたりありました。冬休み中は急速に収束し、子どもたちは楽しい冬休みを過ごせたと思います。

新学期が始まって2週間ほどで再度インフルエンザの流行が始まったようです。全国のインフルエンザのウイルス分離ではほとんどがH3と呼ばれるA香港型です。函館市内近郊でも同じA香港型が流行していると思われます。

突然の発熱が先行し、その後に咳や鼻水が出てくるというのがインフルエンザの特徴です。インフルエンザのほかにもウイルス性の胃腸炎が流行中ですので、発熱と嘔吐、下痢という組み合わせで受診されるお子さんも多数いらっしゃいます。

症状が出た人のワクチン接種の有無を調べておりますが、現在流行中のインフルエンザには発症予防としてのワクチンの効果はほとんどみられていないというのが現状です。

幸いなことに、函館近郊ではインフルエンザ脳症などの報告はありませんが、全国では昨年12月から1月までの間に、インフルエンザに絡む脳炎として小児は18例、成人は4例報告され、5歳児の死亡が報告されています。(感染症情報センター集計)

38度の発熱から迅速検査ができるまでには数時間程度必要です。発熱してすぐ受診されても検査は陰性となることが多々ありますので、発熱が辛ければ解熱剤を使用して、慌てずに受診してください。

インフルエンザと診断されたら、発熱した日を0日として、5日目までは熱が下がっても休まなければなりません。幼児においては登園前3日間、学童以上は2日間は発熱がないことを確認して登園登校をしてください。罹ってしまったものは仕方ありませんが、感染を広げないためにも、他人に移さないという配慮も必要です。